



2025年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年5月9日
上場取引所 東

上場会社名 小林製薬株式会社
コード番号 4967 URL <https://www.kobayashi.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 豊田 賀一
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務本部長 (氏名) 中川 由美 TEL 06-6222-0142
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年12月期第1四半期の連結業績（2025年1月1日～2025年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期第1四半期	32,607	△10.6	2,535	△49.6	2,401	△56.0	1,624	66.5
2024年12月期第1四半期	36,485	9.0	5,028	△0.6	5,461	5.7	976	△72.9

（注）包括利益 2025年12月期第1四半期 △2,052百万円（－％） 2024年12月期第1四半期 4,383百万円（△9.0％）

	1株当たり 四半期純利益
	円 銭
2025年12月期第1四半期	21.86
2024年12月期第1四半期	13.13

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期第1四半期	251,752	207,058	82.0
2024年12月期	265,368	213,471	80.2

（参考）自己資本 2025年12月期第1四半期 206,341百万円 2024年12月期 212,778百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	43.00	—	59.00	102.00
2025年12月期	—	—	—	—	—
2025年12月期（予想）	—	44.00	—	60.00	104.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	171,000	3.3	14,000	△43.7	15,300	△43.0	10,500	4.3	141.25

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年12月期1Q	78,050,000株	2024年12月期	78,050,000株
② 期末自己株式数	2025年12月期1Q	3,711,181株	2024年12月期	3,711,181株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年12月期1Q	74,338,819株	2024年12月期1Q	74,338,914株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社は2025年5月9日(金)に機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料につきましては、開催当日に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	8
(四半期連結損益計算書に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(収益認識に関する注記)	10
(重要な後発事象の注記)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社紅麹関連製品に関して、健康被害にあわれたお客様をはじめ、株主の皆さま、当社を取り巻くすべての関係者の皆さまに多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますことを、心より深くお詫び申し上げます。健康被害にあわれたお客様への補償について真摯に対応し、再発防止に向けた取り組みを進めることで、信頼回復に努めてまいります。

当第1四半期連結累計期間における当社グループをとりまく経営環境は、新型コロナウイルス感染症の落ち着いたに伴って多くの国で経済活動が再開し、国・地域を越えた移動も増加傾向になる中、原材料価格の高騰やエネルギーコスト上昇に伴う消費低迷の懸念や、地政学リスクの高まりなど、先行き不透明な状況が続きました。

その結果、売上高は32,607百万円（前年同期比10.6%減）、営業利益は2,535百万円（前年同期比49.6%減）、経常利益は2,401百万円（前年同期比56.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,624百万円（前年同期比66.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

国内事業

当事業では、お尻などのブツブツ治療薬「ヒプキュア」や、香りで気持ちを整えることを目指して調香した機能性芳香剤「Sawaday+ & Emotion（サワデーアンドエモーション）」、10大悪臭に効く香りでごまかさな無香料の消臭剤「消臭元ZERO（ゼロ）」や、バリア機能の低下により繰り返す、顔の乾燥荒れや炎症などのトラブルを肌の奥から改善する乾燥荒れ治療薬「キュアレアドライ」など、2024年の春に15品目、秋に17品目の新製品を発売し、売上に貢献しました。

また、訪日外国人数の増加に伴い、インバウンド需要も増加し、売上に貢献しました。

しかしながら、紅麹関連製品の自主回収を発表した2024年3月22日以降、全製品の広告を停止したことで、特にヘルスケアが影響を受けて減収となりました。一方、日用品に関しては広告を停止している中でも、特に芳香消臭剤が牽引し、増収となりました。カイロについては、2025年1月～3月は気温低下により好調に推移し、増収となりました。また、通販においては、定期購入の解約が増えた影響で減収となりました。

その結果、売上高は23,537百万円（前年同期比12.9%減）、セグメント利益は2,541百万円（前年同期比34.0%減）となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は前第1四半期連結累計期間では870百万円、当第1四半期連結累計期間では766百万円となっております。

(外部顧客への売上高の内訳)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	増減	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減率 (%)
ヘルスケア	15,519	12,752	△2,767	△17.8
日用品	8,595	8,626	31	0.4
カイロ	415	640	225	54.1
通販	1,608	751	△856	△53.3
合計	26,139	22,771	△3,367	△12.9

国際事業

当事業では、米国・中国・東南アジアを中心に、カイロや額用冷却シート「熱さまシート」、外用消炎鎮痛剤「アンメルツ」などを販売しており、広告や販売促進など積極的に投資することで、売上拡大に努めました。

米国では、2025年1月～3月は2024年の同時期と比べ、気温低下によりカイロが伸長しました。また、2023年に買収したFocus社において、サプリメントや医薬品の新製品を発売したことに加え、為替変動の影響による売上の増加も寄与し、増収となりました。

中国では、例年に比べ発熱を伴うインフルエンザの罹患者が少なかったため、熱さまシート需要が低迷したことにより、減収となりました。

東南アジアでは、出荷タイミングの期ずれや、前年の各種感染症流行の反動で熱さまシート需要が低迷したことにより、減収となりました。

その結果、売上高は10,091百万円（前年同期比5.1%減）、セグメント利益は0百万円（前年同期比100.0%減）となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は前第1四半期連結累計期間では439百万円、当第1四半期連結累計期間では382百万円となっております。

（外部顧客への売上高の内訳）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2025年1月1日 至 2025年3月31日）	増減	
	金額（百万円）	金額（百万円）	金額 （百万円）	増減率 （%）
米国	3,873	4,837	964	24.9
中国	2,802	1,992	△810	△28.9
東南アジア	2,705	2,038	△666	△24.6
その他	807	839	32	4.0
合計	10,188	9,708	△479	△4.7

その他

その他には、運送業、合成樹脂容器の製造販売、不動産管理、広告企画制作等を含んでおり、各社は独立採算で経営し、資材やサービス提供についてその納入価格の見直しを適宜行いました。

その結果、売上高は1,425百万円（前年同期比15.1%減）、セグメント利益は36百万円（前年同期比65.4%減）となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は前第1四半期連結累計期間では1,520百万円、当第1四半期連結累計期間では1,298百万円となっております。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末に比べ13,616百万円減少し、251,752百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加（1,532百万円）、受取手形及び売掛金の減少（16,808百万円）、商品及び製品の増加（2,877百万円）等によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ7,203百万円減少し、44,693百万円となりました。主な要因は、未払金の減少（7,453百万円）等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ6,413百万円減少し、207,058百万円となり、自己資本比率は82.0%となりました。主な要因は、利益剰余金の減少（2,761百万円）、為替換算調整勘定の減少（3,258百万円）等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月期の連結業績予想につきましては、2025年2月10日付け公表の「2024年12月期 決算短信」に記載の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	50,873	52,405
受取手形及び売掛金	49,442	32,633
有価証券	14,872	14,874
商品及び製品	15,143	18,021
仕掛品	2,091	2,313
原材料及び貯蔵品	6,929	7,056
その他	5,174	5,086
貸倒引当金	△58	△58
流動資産合計	144,468	132,332
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	32,461	32,860
機械装置及び運搬具（純額）	6,476	6,648
工具、器具及び備品（純額）	2,485	2,422
土地	5,947	5,879
リース資産（純額）	815	753
建設仮勘定	19,261	19,101
有形固定資産合計	67,448	67,666
無形固定資産		
のれん	9,260	8,406
商標権	8,220	7,395
ソフトウェア	2,662	2,759
その他	530	488
無形固定資産合計	20,674	19,049
投資その他の資産		
投資有価証券	24,617	24,214
長期貸付金	1,269	1,309
退職給付に係る資産	750	776
繰延税金資産	3,087	3,422
投資不動産（純額）	2,650	2,641
その他	1,730	1,713
貸倒引当金	△1,328	△1,374
投資その他の資産合計	32,777	32,703
固定資産合計	120,900	119,419
資産合計	265,368	251,752

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,264	9,040
電子記録債務	6,424	6,108
未払金	17,117	9,663
リース債務	343	363
未払法人税等	1,913	1,227
未払消費税等	346	598
賞与引当金	2,840	4,076
製品回収関連損失引当金	3,970	3,086
その他	5,202	5,518
流動負債合計	46,423	39,684
固定負債		
リース債務	503	426
繰延税金負債	1,554	1,183
退職給付に係る負債	1,005	1,023
その他	2,409	2,375
固定負債合計	5,473	5,009
負債合計	51,896	44,693
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,450	3,450
資本剰余金	522	522
利益剰余金	208,240	205,479
自己株式	△24,767	△24,767
株主資本合計	187,445	184,684
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,469	12,040
為替換算調整勘定	12,300	9,041
退職給付に係る調整累計額	563	574
その他の包括利益累計額合計	25,333	21,657
新株予約権	688	713
非支配株主持分	4	2
純資産合計	213,471	207,058
負債純資産合計	265,368	251,752

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
売上高	36,485	32,607
売上原価	15,534	15,924
売上総利益	20,951	16,682
販売費及び一般管理費	15,922	14,147
営業利益	5,028	2,535
営業外収益		
受取利息	69	51
受取配当金	1	6
不動産賃貸料	73	76
為替差益	226	—
その他	153	109
営業外収益合計	525	244
営業外費用		
支払利息	4	4
不動産賃貸原価	25	25
為替差損	—	272
貸倒引当金繰入額	53	56
その他	9	18
営業外費用合計	93	378
経常利益	5,461	2,401
特別利益		
固定資産売却益	1	54
投資有価証券売却益	0	16
その他	—	8
特別利益合計	1	79
特別損失		
固定資産処分損	8	4
製品回収関連損失	3,648	688
その他	218	45
特別損失合計	3,876	738
税金等調整前四半期純利益	1,586	1,743
法人税、住民税及び事業税	2,067	947
法人税等調整額	△1,457	△826
法人税等合計	610	120
四半期純利益	976	1,623
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△1
親会社株主に帰属する四半期純利益	976	1,624

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
四半期純利益	976	1,623
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	249	△428
為替換算調整勘定	3,132	△3,258
退職給付に係る調整額	25	11
その他の包括利益合計	3,407	△3,676
四半期包括利益	4,383	△2,052
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,383	△2,050
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

(グローバル・ミニマム課税制度に係る法人税等の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

「グローバル・ミニマム課税制度に係る法人税等の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第46号2024年3月22日）を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。なお、当該実務対応報告第7項を適用しているため、当第1四半期連結財務諸表においては、グローバル・ミニマム課税制度に係る法人税等を計上しておりません。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

(偶発債務)

当社が販売した機能性表示食品「紅麴コレステヘルプ」を摂取されたお客様から健康被害が報告されており、本製品及びそれに使用している紅麴原料（自社製造）の回収を進めてまいりました。成分分析の結果、一部の紅麴原料に腎毒性を有するプベルル酸が含まれていることが判明しました。当社は紅麴コレステヘルプ等の摂取によって健康被害にあわれたお客様に対する補償を進めております。

この状況を踏まえ、当該事象に関連して、主に（1）企業様向け紅麴原料の回収費用、（2）健康被害にあわれたお客様への補償費用について、現時点で合理的に見積り可能な範囲内で、製品回収関連損失引当金として計上しております。しかし、企業様やお客様からの予期せぬ情報提供や訴訟等、現時点で合理的な見積りに及ばない範囲については、当社がその総額を合理的に見積ることは困難であり、追加的に費用が発生する可能性があります。

(1) 企業様向け紅麴原料の回収費用

当社が販売していた紅麴原料は当社の直接的な取引企業52社を通して国内外の取引先様に販売されてきました。これら当社グループの取引先様において、関連製品の回収が実施されており、取引先様には関連製品の回収費用に係る情報の収集をお願いしております。取引先様から個別に収集した関連製品の回収費用に係る情報等に基づき、今後発生が見込まれる費用について、現時点で合理的に見積り可能な範囲内で、見積り計上しております。

(2) 健康被害にあわれたお客様への補償費用

2024年8月8日に公表した「当社の紅麴コレステヘルプ等の摂取により健康被害にあわれたお客様への補償について」に記載された補償方針及び補償内容に基づき、医療費・交通費、慰謝料、休業補償、後遺障害による逸失利益等の補償を進めております。通院や入院等の状況及び慰謝料や休業補償、逸失利益等の算定単価に基づき、今後発生が見込まれる補償費用について、現時点で合理的に見積り可能な範囲内で、見積り計上しております。

(四半期連結損益計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間において、紅麴関連製品の回収及びその関連費用等について、製品回収関連損失688百万円を特別損失として計上しております。製品回収関連損失の主な内訳は、企業様向け紅麴原料の回収費用、健康被害にあわれたお客様への補償費用となります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
減価償却費	1,441百万円	1,832百万円
のれんの償却額	345	354

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書 計上額 (注) 3
	国内 事業	国際 事業	計				
売上高							
日本	26,139	—	26,139	157	26,296	—	26,296
米国	—	3,873	3,873	—	3,873	—	3,873
中国	—	2,802	2,802	—	2,802	—	2,802
東南アジア	—	2,705	2,705	—	2,705	—	2,705
その他	—	807	807	—	807	—	807
顧客との契約から生じる 収益	26,139	10,188	36,327	157	36,485	—	36,485
外部顧客への売上高	26,139	10,188	36,327	157	36,485	—	36,485
セグメント間の内部売上 高又は振替高	870	439	1,310	1,520	2,830	△2,830	—
計	27,010	10,628	37,638	1,678	39,316	△2,830	36,485
セグメント利益	3,849	1,061	4,910	106	5,017	11	5,028

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業、合成樹脂容器の製造販売、不動産管理、広告企画制作等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額11百万円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書 計上額 (注) 3
	国内 事業	国際 事業	計				
売上高							
日本	22,771	—	22,771	127	22,898	—	22,898
米国	—	4,837	4,837	—	4,837	—	4,837
中国	—	1,992	1,992	—	1,992	—	1,992
東南アジア	—	2,038	2,038	—	2,038	—	2,038
その他	—	839	839	—	839	—	839
顧客との契約から生じる 収益	22,771	9,708	32,480	127	32,607	—	32,607
外部顧客への売上高	22,771	9,708	32,480	127	32,607	—	32,607
セグメント間の内部売上 高又は振替高	766	382	1,148	1,298	2,447	△2,447	—
計	23,537	10,091	33,629	1,425	35,054	△2,447	32,607
セグメント利益	2,541	0	2,541	36	2,578	△42	2,535

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業、合成樹脂容器の製造販売、不動産管理、広告企画制作等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△42百万円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識に関する注記)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等の注記)」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象の注記)

(梅丹本舗製品の製造販売休止の継続及びそれに伴う紀の川工場の閉鎖)

当社は、2025年4月14日開催の取締役会において、連結子会社である株式会社梅丹本舗（以下「梅丹本舗」といいます。）において製造する製品の製造販売の休止を継続し、和歌山県紀の川市に所在する工場施設（以下「紀の川工場」といいます。）について2025年6月30日をもって閉鎖することを決議いたしました。

1. 梅丹本舗の概要

- | | |
|--------|---------------------------|
| ①名称 | 株式会社梅丹本舗 |
| ②所在地 | 和歌山県紀の川市北勢田1088番地11 |
| ③事業内容 | 梅肉エキスを使用した健康食品などの製造販売事業 |
| ④設立年月日 | 1969年11月21日（創業1925年7月11日） |

2. 閉鎖の理由

当社は、2019年に梅丹本舗の株式を譲り受け、当社グループ企業として梅肉エキスを使用した製品（以下「梅丹本舗製品」といいます。）の製造販売を行ってまいりました。その後、当社グループ企業の経営資源の最適化のため、紅麴原料の製造設備を紀の川工場へ移設しておりました。しかしながら、紅麴関連製品の回収事案の発生を受け、2024年8月に紅麴事業の撤退を発表いたしました。また、現在、紀の川工場は操業を停止し、梅丹本舗製品に関しても販売を休止しております。そのような状況の中、改めて梅丹本舗製品の製造販売事業の成長性や採算性及びその実現に伴う各種投資等を検討した結果、現時点では事業としての見通しが立たないため、当面の間、梅丹本舗製品の販売休止を継続することを決議いたしました。つきましては、梅丹本舗製品の専門生産工場である、紀の川工場に関しましても操業再開の目途が立たないため、この度、事業所としては閉鎖することとなりました。

なお、今回の操業停止に伴い、紀の川工場に関する各ステークホルダーの皆様に対して真摯に対応するとともに、従業員に対しては一人ひとり丁寧に向き合い、社内外での活躍に向けて必要な支援をしてまいります。

一方で、梅丹本舗製品に関しては一部のお客様からの販売再開のお問い合わせもあり、梅という素材の持つ可能性を精査することを含め、中長期的には新製品としての可能性を検討してまいります。

3. 閉鎖の日程

- | | |
|------------|-------------|
| 2025年4月14日 | 当社取締役会決議 |
| 2025年6月30日 | 紀の川工場閉鎖（予定） |

4. 今後の見通し

当該工場の閉鎖に伴う当社連結業績への影響は軽微であると見込んでいます。今後開示すべき事項が発生した場合には、速やかに開示いたします。